はふたえ

鶴岡発

絹のみちしるべ

羽前絹練通信

第2号 2016・冬号

The road to Silk・Uzen Kenren

精練の準備工程　生地仕立て
(上)枠掛け　(下)札掛け

おらだの仕事場 Vol.2

生地仕立て（精練準備）

精練の準備段階となる生地仕立て。絹生地をいたわり、慈しむような繊細な仕事が女性たちの手で今日も黙々と営まれている。

解反機で生地は回転しながら振り落とされる

全国各地の機屋から送られてきた生地

工場というより老舗旅館の大広間といった趣の作業場

解反機で振り落とされた生地

精練の準備工程として行われるのが「生地仕立て」という作業である。作業場は工場というより老舗旅館の大広間のような趣ある空間で、ほとんどが畳敷きとなっている。絹の生地は繊細で傷つきやすく裂けやすい。移動の多いこの工程では板間やコンクリートより畳の方が生地に優しいという永年の知恵が生かされている。

機屋などから搬入された生地はそのまま精練できるわけではない。まず解反機という機械にかけ、回転させながら生地を振り落としていく。それらのうち重く厚いものは「枠掛け」という生地をロールケーキ状に巻いて吊るものへ、軽く薄いものは「札掛け」という二枚重ねに仕上げる工程に分けられる。枠掛けは、台に乗りながらクルクルと均等間隔で回しながら素早く紐を通していく、経験と根気とバランス感覚の必要な仕事である。生地を筒状に巻くことにより、精練時に均等にお湯に浸けることができ、ムラが出ないようになる。札掛けも軽目の生地を二枚重ねに仕上げる繊細さと正確さが必要な根気のいる作業だ。テキパキと手際よく仕立てられていくこの工程を経て、生地はいよいよ精練へと送られていく。

枠掛け作業(紐通し)

枠掛け作業のようす

札掛け作業(二枚重ね)

おらだの職人さん Profile ❷

整理課 準備係 主任
山口 広美（平成8年入社）

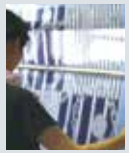
良質な品をお客様にお渡ししたいので、時間がかかっても素材に合ったやり方にこだわり、且つ疋数もこなせるよう毎日頑張っています。国内でも数少ないシルク加工業務に携わることができる誇りを忘れず、常に「きれい・速い・むだのない」仕事を心がけています。

羽前絹練の主な業務工程

◆精練

絹織物・絹交織織物
〈スカーフ・服地等〉
※2匁～30匁以上まで

◆染色



※4匁程度から

◆水洗加工

◆仕上げ後加工
【特殊加工業務】

多彩な特殊加工技術で対応

- オパール加工
- 樹脂加工
- 毛焼き加工
- オイリング
- スリップ止め
- ピーチ加工
- 柔軟加工
- UVカット加工
- 防燃加工
- 撥水加工
- 抗菌加工
- 湯通し加工
- 湯煮（糊落し）
- 漂白仕上　など

お気軽になんでもご相談ください!

はぶたえ

第二号発刊にあたって

羽前絹練株式会社
代表取締役 **阿部 純次**

昨年夏、弊社の企業理念や業務内容、絹織物に関する知識、有数の絹織物産地である地元鶴岡などについてご紹介したいと考え、「はぶたえ〈鶴岡発〉絹のみちしるべ」を発刊しました。

ご高覧いただきました方々から、さまざまなご感想、ご意見を賜りましたことに対し、心より感謝申し上げます。

このたび、「はぶたえ」第二号を発刊いたしました。

これまで以上に弊社業務や鶴岡絹織物をご理解いただくための一助として、ご愛読いただければ幸いです。

絹のみちしるべ 2

鶴岡シルク 成立ちと変遷

明治から大正へ、地域と共に連綿と紡がれてきた鶴岡絹織物の歴史と伝統。試行錯誤と変遷を繰り返しながら歩んだ「鶴岡シルク」黎明期のエピソード。

享保年間(1716〜1735)に始ったと伝えられる鶴岡の絹産業は、明治期に入ると急速に発展していく。明治26年(1893)、羽二重生産同業者によって「鶴岡絹織会」が設立されると、メンバー有志による国内主要絹織物業地帯の視察・技術習得などの時期を経て、輸出向け羽二重製織業の本格稼働に向けた動きが加速。明治28年(1895)、織機50台という当時町内最大規模の「荘内羽二重工場」を新築、輸出羽二重の製織を開始した。加えて折から、地元行政が実業教育の普及を目指す実業徒弟学校補助法に基づいて染色学校を設立しようとしていた要請に応え、工場の一隅を染色学校に貸与された。新工場の稼働と染色学校の設立・運営を通じて、次第に地場産業としての基盤が整備されていった。

荘内羽二重工場はその後、荘内羽二重株式会社、羽二重合資会社と経営形態を変えていった。明治40年(1907)には、羽二重合資会社の事業を継承した羽前織物株式会社が創業し、輸出絹織物の製造販売を行った。

羽前織物株式会社の玄関前で会社関係者(明治43年)

セントルイス万国博覧会にて羽前羽二重同業組合が銅賞受賞(明治37年)

日英博覧会にて羽前織物株式会社が金賞受賞(明治37年)

羽前織物株式会社創業の前年、明治39年(1906)に創立した当地方最古の織物精練会社が「羽前絹練株式会社」である。有名な羽前羽二重、羽前繻子等の羽前絹織物が輸出されるまでには養蚕―製糸―織物の三業工程を必要とするが、織物業内部はさらに精練過程に区分される。精練過程とは製糸工場で作られた生糸を織物工場で製織後、①糊抜→②脱水→③乾燥→④幅出によって精練加工するもので織物業の最終加工工程である。羽前絹練株式会社は創業以来、羽前織物株式会社の精練工程を担い発展し、大正13年(1924)には、鶴岡織物株式会社系の精練会社を吸収して地域独占的な精練会社となった。

(次号に続く)

参考文献:金屋・風間創業二二〇年史

鶴岡散歩

観光・風土・自然・味覚

ふわふわ漂うクラゲに癒されて・・・ 世界一のクラゲ展示数を誇る水族館

加茂水族館

別名「クラゲドリーム館」とも呼ばれる世界一多種類のクラゲを展示するユニークな水族館。閉館危機の困難な時代を乗り越え、人気のスポットへと変貌を遂げた話題の水族館。名誉館長は、クラゲの緑色蛍光タンパク質を解明したノーベル化学賞の下村脩氏。

日本海育ちの「寒鱈」を丸ごと味わう冬の味覚

寒鱈汁(かんだらじる)

「どんがら汁」とも呼ばれる庄内の冬の味覚。日本海の荒海で大きく育った寒鱈を、身はもちろん内臓や骨まで、まるごと味噌仕立てで豪快に味わう郷土料理。素朴で野趣あふれる味わいが人気。毎年開催される日本海寒鱈まつりの主役。

弊社表玄関

羽前絹練株式会社
〒997-0044 山形県鶴岡市新海町21-1
TEL:0235(24)1300 FAX:0235(24)1302
e-mail mail@uzen-kenren.co.jp
URL http://www.uzen-kenren.co.jp